2005年度　中部日本高等学校演劇大会愛知県大会参加作品

滝高校演劇部

チェリーボーイズ

作　瀧　源作

≪キャスト≫

２年さくら組

竹島彰規　吉永廉平
玉置国大　森大輔
木村純也　永田裕也
淺田星矢　馬原優治
山田剛史　校條洋輔

先生

徳田琴美　佐橋和貴

女子生徒

坂井史織　酒井悠里
織田万美子　松前翔子
熊木友理奈

≪スタッフ≫

演出　堀雄貴
舞台監督　赤尾聡

演出助手　徳田琴美　松前翔子
玉置国大　永田裕也

大道具　鬼頭友祐　綱島正侑記
小島隆志　後藤彰宏
佐橋和貴　武藤康輔
堀昌太郎　長屋賢治
森大輔　木村純也
馬原優治　山田剛史

小道具　西村祐貴　竹島彰規
髙橋政希　酒井美香子
熊木友理奈

照明　丹羽祐里香　近常敦俊
長尾大志　渡邉千皓
松山苑未

音響　五島彰人　坂井史織
中村優希　吉田友紀
校條洋輔

衣装・メイク　酒井悠里　吉永廉平
織田万美子　淺田星矢

一

オープニングダンス

全員　先生。
佐橋先生　着席。

（机を移動させる。）

佐橋先生　起立。おはよう。
全員　おはようございます。
佐橋先生　着席。今度このクラスの担任になった佐橋和貴だ。
みんな一年間元気でいこう。

全員　はぃ！
剛史　先生、変です。
佐橋先生　何か変か？
優治　このクラスには女子がいないんです。
佐橋先生　よく気がついたな。
くに　そんなの誰だって気がつきますよ。
裕也　二年になったらクラスに女が一人もいない。
剛史　先生、説明してください。
佐橋先生　何だ、お前ら。そんなにこのクラスが不満か？
たけ　当たり前じゃないですか。
廉平　青春には女性が必要なんです。
大輔　女子が必要なんです。
剛史　女をください。

（「女」コール始まる。最後は先生も一緒になって始める。）

佐橋先生　俺だってこんなクラスきたくなかったさ。
全員　何で？
佐橋先生　じゃんけんで負けたんだ。
全員　そんなぁ。
佐橋先生　まぁ座れ。とりあえず俺もお前たちも二年さくら組に決まったんだ。
剛史　大体何でさくら組なんですか。
たけ　他のクラスはＡＢＣのアルファベットじゃないですか。
佐橋先生　何か不服か？
廉平　幼稚園の子供じゃあるまいし、高校生のさくら組なんて聞いたことないですよ。
佐橋先生　さくらが嫌ならぞう組やメロン組でもいいんだぞ？
裕也　そういうこと言ってるんじゃないです。

佐橋先生　じゃあなぜ他のクラスと名前が違うか、そしてなぜ女子がいないか、胸に手を当てて考えてみろ
全員　ん～？（全員胸に手を当てて考える。）・・・んー
佐橋先生　わかったか？
全員　んーん（全員首を横に振る。）
佐橋先生　このクラスは特別選抜クラスなんだ。
全員　おー。
佐橋先生　賢いと思ってるか？
全員　いやぁ～
佐橋先生　最低クラスだ。
全員　えっ！
佐橋先生　下から十人集めたらこうなった。
裕也　先生、僕はこのクラスにいるべき人間ではありません。
佐橋先生　どうしてそう思う？
裕也　純也や優治より頭はいいはずです。
佐橋先生　そうだな、下から二番目だもんな。
裕也　ハィ、おっしゃるとおりです。
佐橋先生　このクラスにお前は？
裕也　いるべきです。
佐橋先生　よし、座れ。
裕也　はい。
大輔　先生、じゃあ何で僕もこのクラスにいるんですか。去年一年間委員長として頑張ってきたのに、どうしてその成果を認めてくれないんですか。
佐橋先生　成績が悪かったからだろ。
大輔　内申は誰よりもよかったはずです。
佐橋先生　今度は成績だけで決められたんだ。
大輔　なんと理不尽な。
くに　大輔君、座ろうよ。
大輔　そうだね。
くに　でも先生、これはあまりにも不当じゃありませんか。
佐橋先生　なんでだ？
くに　僕達の様な勉強できない生徒は忌み嫌われてるってことですか。
佐橋先生　いや、そうじゃない。
くに　くさいものには蓋をしろってことですか。
たけ　じゃあ俺たちうんちってこと？
くに　バカ、自分を卑下するな。
たけ　卑下するってなんだよ。
くに　君にはプライドがないのか。
たけ　毎週見てたよ。
くに　僕達バカにされているんだぞ。
たけ　バカだからここにいるんだろ？

くに　僕はバカじゃない。それに成績だけで人を差別するのが許せない。
たけ　ココは特別選抜クラスだよ
くに　それで？
たけ　君の成績が悪いのは確かだ。
くに　それは分かってる。でも・・・。
たけ　学校は君の能力を伸ばそうとしてくれる場所なんだよ。成績上がりたいだろ？
くに　うん。
たけ　尊敬されたいだろ？
くに　うん。
たけ　女にもてたいだろ？
くに　うん
たけ　そんな君のためにこのクラスは編成されたんだ。
くに　先生、ありがとうございます。
星矢　先生、僕もここにいてはいけないと思う。
佐橋先生　どうしてだ？
星矢　他のクラスの女子が呼んでいるんです。
佐橋先生　何でそう思うんだ？
星矢　本能です。
佐橋先生　は？
純也　そう、本能。古代地球上には本能しかありませんでした。本能がなければ僕達はココに存在すらしていません。本能は純粋で清らかで繊細で僕達をいつも正しいほうへと導いてくれるんです。なぁ、みんな？

（皆、引いてる）

純也　あれ？
佐橋先生　高校生の本分は勉強だ。この素晴らしい男だけの環境できっとお前達の成績も上がってくれるだろう。女のことはしばらく忘れて青春を謳歌しろ
剛史　女子のいない青春なんて考えられない。
優治　女子がいるから青春なんです。
たけ　青春とは女子の謳歌だ。
佐橋先生　まだ女子とも付き合ったことのないお前たちが女の事つべこべ言うな。
剛史　じゃぁ先生は女と付き合ったことあるんですか？
佐橋先生　あ、あるよ。
裕也　本当に？
佐橋先生　ある。
くに　あやしい。
佐橋先生　じゃあお前らは付き合ったことあるのか？
全員　(口々に)あります。
佐橋先生　じゃあ聞く。女子と付き合ったことある者、手を上げろ。

（全員手を上げる。洋輔遅れて手を挙げる）

佐橋先生　何かうさんくさいなぁ。

（全員先生に向かって反論。）

佐橋先生　あ！もうこんな時間だ。次の授業に間に合わなくなる。

優治　まだ始まったばかりですよ。

佐橋先生　しかしＳＨＲの時間は終わりだ。

裕也　話は終わってませんよ。

剛史　逃げるんですか？

佐橋先生　逃げることができるなら俺もこのクラスから逃げたいよ。とにかく、この話は長くなるからまたＨＲでゆっくり話をしよう。ＳＨＲはこれで終わり。

（佐橋先生、退場する。）

廉平　こんなクラスだったら学校辞めてやるよ！

（みんな廉平のほうに集まって騒ぐ。）

廉平　洋輔、どうした？

洋輔　手が痛い。

（みんなで洋輔のほうに移動していく。）

剛史　手を下ろせよ。

たけ　とにかく、女がいないクラスなんて考えられないよな。

くに　明らかに人種差別だよ。

星矢　俺、俺帰る！

（全員帰ろうとする。）

琴美先生　おはようございます。

（全員振り返る。）

全員　おはようございます。・・・着席。

（全員あわてて席に着く。）

琴美先生　授業始めるわよ。

全員　はい。
琴美先生　委員長、号令。
大輔　まだ決まってません。
琴美先生　じゃあ、あなたやりなさい。
大輔　僕ですか？
琴美先生　早く、号令かける。
大輔　はい。起立、礼、着席。
琴美先生　では、授業始めます。
剛史　先生、お名前教えて下さい。
琴美先生　あっ、そうだったわね。
くに　これから一年間長くやっていくんですから自己紹介お願いします。ちなみに僕は玉置国大と言います。

（全員慌てて自己紹介しようとする）

琴美先生　やかましい！しゃべる時は一人ずつ。では、私から。名前は徳田琴美。
裕也　担当は英語。
琴美先生　いい名前だなぁ。
廉平　年齢は秘密。
琴美先生　あぁ、そこ気になりますよ。
たけ　身長、体重も秘密。
琴美先生　しびれる。
星矢　スリーサイズも秘密。
全員　当ててみせましょうか？
琴美先生　黙っとけ！
全員　結婚はしてません。
琴美先生　やったー。
全員　まぁこんなところです。それでは、みんな、教科書はもって来ましたか？
琴美先生　はい！
全員　どうしたの？
琴美先生　どうしたんだ、洋輔？
大輔　教科書忘れました。
洋輔　しょうがないわね。私の見せてあげるわ。
琴美先生

（琴美先生、洋輔の机に教科書を置き、見せる。）
（全員「忘れました」と言って洋輔の周りに机を持っていく）

琴美先生　アナタたち持ってるでしょ？
全員　持ってません。
琴美先生　嘘。
剛史　僕達ココで勉強したいんです。

廉平　なんかこの位置がしっくり来るんです。
琴美先生　教科書忘れるとマイナス３点よ。

（全員慌てて戻って行く）

洋輔　先生、３点ひかれるなら、隣の委員長の見せてもらいます。
琴美先生　そうしなさい。では、教科書７ページを開いてください。
　　では、永田裕也君、読んで下さい。
裕也　先生、もう一回呼んで下さい。
琴美先生　永田裕也君？
裕也　違います。下の名前です。
琴美先生　裕也君？
裕也　なんて罪な声。
琴美先生　裕也君？
裕也　先生。
琴美先生　裕也君？
裕也　先生。
琴美先生　裕也君？
裕也　溶けてしまいそう。
たけ　悪霊退散。

（裕也溶ける。）

くに　先生、だめです。こんな奴にかまっちゃ。
琴美先生　そうですね、じゃあ授業を始めます。
星矢　先生、僕の本能が、蛙飛び。
琴美先生　私、蛙は嫌いよ。
廉平　お前は黙っとけ。先生、朝の味噌汁って好きですか？
琴美先生　好きよ。
廉平　僕に作らせて下さい。
琴美先生　母が作ってます。
廉平　そうですか。
剛史　先生、子供は好きですか？
琴美先生　好きよ。
剛史　じゃあ僕と・・・。
琴美先生　皆大好きよ。
剛史　僕も皆大好き・・・。
たけ　先生、接吻は好きですか？
琴美先生　嫌いです。
たけ　はい。
優治　先生、肉体的な男はいかがでしょう。

琴美先生　好きよ。
優治　それなら僕と…。
琴美先生　脳みそまで筋肉は嫌よ。
優治　またお会いしましょう。
くに　先生、もう授業始めましょう。
琴美先生　そうですね。じゃあ、7ページ「メリーさんのショッピング」。

（琴美先生、歩きながら英文を読む。）

琴美先生　メリーさんは何と言ったでしょう。ハイ（くにを指す。）
一部　How much コレ?

（全員、目は頭を見て、手はお腹辺りを指す。）

琴美先生　これって何よ。
くに　あ、これは、その…。
琴美先生　「これ」は日本語でしょ「is it」よ。
一部　はい。

（琴美先生、続きを読み始める。）

琴美先生　なんか暑いわね。
一部　暑いですね～。
裕也　僕も暑くなりたいです。
琴美先生　何バカなこと言ってんの。窓を開けて頂戴。
全員　はい。
琴美先生　風、こないわね。
剛史　仰ぎます。
琴美先生　大丈夫よ、心配しなくて。
剛史　いえ、ぜひ仰がせて下さい。
琴美先生　ありがとう。

（琴美先生、英文を読み始める。だんだん皆が仰ぎ始める。）
（先生に合わせて、生徒も単語の練習を始める。）
（洋輔がおならをする。）

琴美先生　誰?

（洋輔が手を上げる。）

琴美先生　授業が終わるまで我慢しなさい。

洋輔　はい。

（発音練習をしながら、皆倒れていく。）

F．O．

暗転

二

全員　うっそー。

全員　回ってるー

純也　し、静かに！

（皆黙る。）

純也　スピリチュアルが告げています。

大輔　大輔、あなたは代表者会議で素敵な出会いがあります。

大輔　本当か？

剛史　やったな。

大輔　で、どんな人？

純也　髪が短くて、

大輔　うん。

純也　背が高くて、

大輔　うん。

純也　ガタイが良くて、

大輔　うん。

純也　野球部の四番エースです。

剛史　男じゃねえか。

大輔　俺、男と結ばれるの？

純也　そのようです。

剛史　おめでとう。

（大輔、落ち込む。）

剛史　純也、俺のことも占ってくれよ。

純也　何を占いましょうか？

剛史　そりゃあ彼女のことだろ。

純也　出会いはあります。キッカケが必要でしょう。

剛史　どうすればいいんだ？

純也　想いを綴った紙ヒコーキを飛ばしなさい。
剛史　よし、わかった。

（剛史、手紙を書き始める。）

剛史　今夜七時駅前の噴水の前でお会いしましょう。友達から始めましょうｂｙバーバラ。
大輔　外国人じゃないか。
剛史　外国人の方がもてるんだよ。
大輔　でもそれ女の名前じゃないか。
剛史　女のほうが安心するだろ？
大輔　でも、それじゃあ詐欺じゃないか。
剛史　恋の始まりは騙し合いからだよ。

（剛史、「だよ」のところで飛行機を飛ばす。）

純也　うおおおおおお！
剛史　どうしたんだ？
純也　スピリチュアルが乱れてる。
大輔　どういうことだよ。
純也　男と女のバランスが乱れている。この教室にいる何者かが調和を乱しています。
大輔　誰だよ。
純也　ひょろっとしています。
剛史　大輔か？
大輔　俺じゃないよ。
純也　そいつは今、ご飯を食べている。
剛史　洋輔か？
純也　今口元についたご飯粒を取ろうとしている。あ、卵焼きを落とした。
大輔　それって…。
純也　イニシャルはＴ．Ｋ．です。
全員　タマオキクニヒロ！
くに　何？
剛史　お前が原因だったのか。
大輔　君さえいなければ。
くに　いったい何の話だよ。
純也　ダウジングだよ。
くに　ダウジング？
純也　この五円玉が僕達を導いてくれたのさ。
くに　そんなのあたらないよ。
純也　信じないの？
くに　信じない。

純也　本当に？
くに　本当に。
純也　占ってほしくない？
くに　すごく占ってほしい。
剛史　何だよ、それ。
くに　だって気になるじゃん
純也　何を占ってほしいの？
くに　え？言いにくいけど運命の人とか？
剛史　お、くに色気づいちゃって。
純也　静かに！見える・・・くにの運命の人だ。
大輔　どんなやつだ？
純也　その人は今花束を持っています。
くに　花束？
純也　おしとやかな人です。
くに　おしとやかな人かぁ。
純也　待て！今こっちに向かってきてる。
くに　本当に？
剛史　くに、身だしなみを整えろ。
くに　うん。
純也　入ってくる
くに　（立ち上がって）は、初めまして。タマオキクニヒロです、清純なお付き合いからお願いします。

（星矢登場。）

全員　星矢！
星矢　何？
大輔　くにの運命の人って星矢？
くに　ねえ、これ本当にあたるの？
純也　五円玉を信じろ。
くに　信じられない。
剛史　その花どうしたんだよ。
星矢　花が俺を呼んでいたんだ。
剛史　何で？
星矢　本能だよ。
くに　俺は本能と運命で結ばれるわけ？
3人　その通り。
くに　冗談じゃないよ！

（優治が喜びながら登場。）

優治　やったー！
大輔　どうしたんだ、優治。
優治　俺にもさ、彼女ができるんだよ。
剛史　どういうことだ？
星矢　落ち着いて話せって。
優治　女の子がさ。
全員　うん。
優治　俺のほう見てさ。
全員　うん。
優治　顔赤らめて逃げてったんだ。
全員　おー。
くに　やったじゃん、優治。
優治　俺、今日、朝から決めまくってきたんだ。
剛史　何してきたんだ？
優治　髪型決まってるだろ？眼鏡も決まってるだろ？
　　学ランも決まってるだろ？
　　チャックは開いてるだろ。
剛史　えっ。
優治　優治…それだね。
くに　それで女の子が赤くなったんだよ。
剛史　お前、顔赤いぞ。
大輔　キャー。
剛史

（廉平、たけ、裕也登場。）

廉平　みんな見てくれよ、この手紙。
たけ　廉平、それ返せよ。
廉平　違う、これは俺のだ。
裕也　いや、突き刺さったのは俺の頭。
たけ　抜いたのは俺の手。
廉平　それを取り上げたのは俺！
たけ　じゃぁお前は違うだろ
廉平　だから逃げてんだろ。
剛史　一体何なんだよ。
たけ　キューピットからエアメールが届いたんだよ。
くに　エアメール？
裕也　着信先は俺の頭。
たけ　クリックしたのは俺の手。
廉平　届け先は俺のハート！
三人　わーお！
くに　全然意味わかんないよ

廉平　紙飛行機が愛を乗せてきたんだよ
剛史　えっ？
廉平　参ったよな。ラブストーリーは突然だよな。（中身を開けて）
今夜七時駅前の噴水でお会いしましょう友達から始めましょう。
ｂｙバーバラ。
廉平　外人だよ～！
剛史　廉平、それ校庭で拾ったんだよな。
廉平　よくわかったな。
大輔　この学校に外人っているか？
裕也　そうだよな。
廉平　じゃあこの手紙って…。
剛史　廉平、実はその手紙、俺が書いたんだ。
たけ　でもこれ、女の外人の名前だぜ。
剛史　女の方が安心して来てくれるだろ。
たけ　詐欺ってこと？
裕也　嘘ついたのか。
たけ　嘘は泥棒の始まりだよ。
剛史　恋の始まりだよ。
廉平　俺の心をもてあそんだのか。
剛史　恋の始まりは、だまし合いから

（全員、騒ぎ始める。悠里登場。）

悠里　やかましい！
たけ　あんた誰？
悠里　ここ2年さくら組？
裕也　そうだけど。
悠里　図書委員、誰？
くに　図書委員？誰？（辺りを見回して）決まってません。
悠里　まだ決まってないの？
剛史　図書委員どころか、決まっているのは委員長だけ。
悠里　あんたたち何やってんの！担当の日に図書館に誰もいないの、あんたたちのクラスだけよ。図書委員会は困ってるんだからね。あんたたちが担当の日だけ本がどんどんなくなってるんだから。
くに　盗まれるってこと？
悠里　この学校に泥棒はいません。
剛史　恋泥棒はいるかもしれないけれどな。
全員　わぁ、うまーい。
悠里　そんなこと言ってる場合じゃないでしょ！じゃあ剛史、あんたやって。
剛史　何で俺がやらなくちゃいけないんだよ。
悠里　去年同じクラスだったよしみでしょ。

剛史　関係ねーだろ。
悠里　あんたどうせ暇でしょ。
剛史　俺本嫌いなんだよ。
悠里　くれば好きになるわよ。とりあえず、今日の放課後委員会あるからきなさいよ。
　わかったわね。では。

（悠里、退場。）

大輔　じゃあ剛史、やってくれる？
剛史　嫌だよ。
たけ　ご指名だよ。
剛史　なおさら嫌だよ。たけ、お前がやれ。
大輔　じゃあ、たけ、図書委員ね。
たけ　何で俺がやらなきゃいけないんだよ。
大輔　いや、目についたから。
たけ　そんな理不尽な。
大輔　じゃあ、優治。
優治　俺に図書館が似合うと思うか？
大輔　そうだね、じゃあ、星矢。
星矢　本能だぞ。
大輔　そうだね。
剛史　くに、お前ならぴったりだ。
くに　僕？ああいう怖そうな女性だと食べられそう。
たけ　この学校にあんな女がいるなんて知らなかった。
大輔　そうは言っても、一人は食べられる運命なんだから、誰か手を挙げてよ。
洋輔　はい！

（全員、洋輔を見る。）

大輔　誰か手を挙げてよ。
たけ　純也、脇くさくないか？
純也　えっ！（手を挙げる。）
大輔　純也、やってくれる？
たけ　委員長、純也やってくれるってさ。
純也　どうせやるんだったら、俺は保健委員がいい。
優治　だったら、俺、体育委員！
くに　どうせ決まってないなら立候補でいいよね？
大輔　それでもいいよ。
裕也　じゃあ、俺、放送委員。
剛史　お前の口にピッタリだよ。
裕也　だろ？お前は？

剛史　じゃあ、俺、厚生委員。
くに　じゃあ、俺、ウサギの飼育委員になる。
廉平　じゃあ、給食委員。
星矢　俺、忘れ物委員。
たけ　レースクイーン。
剛史　えっ、そんなのあり？
たけ　「いいん」が付けば何でもいいんだよ。
剛史　じゃあ、俺、衆議院議員。
大輔　アインシュタイン。
優治　プロテイン。
廉平　サーロイン。
裕也　サンシャイン。
星矢　フェードイン！

（照明F．O．）

全員　おいおいおいおい！

（照明C．I．）

たけ　まにうけんなよ、照明！
くに　今のはフェードアウトで、フェードインじゃないでしょ。
　　委員長、もっとちゃんと決めようよ。
大輔　じゃあ、もう一回聞くよ。やりたい人？
洋輔　はい。
全員　却下。

F．O．
暗転

三

トイレシーン

（たけ、トイレに駆け込んでいく）
（翔子、隆志にプレゼントを渡そうと追いかけていく）
（悠里登場。純也、男子トイレから登場）

悠里　ったくいい加減なんだから、あいつは…あ、剛史見なかった？

純也　別に見てないけど…ダウジングで探してあげようか？
悠里　結構です。ほんとにどこで油売ってんのかしら…

（純也退場。剛史、大輔、くに、洋輔登場）

悠里　あ、剛史！あんた委員会サボったでしょ。
剛史　サボってねーよ。
悠里　だってあんた図書委員でしょ。
剛史　違うって。まだ決まってないの。
悠里　そうなの？ちょっと委員長、どうなってるの？
大輔　剛史は死ぬほどやりたくないって言ってるんだ。でも他にやってくれる人がいなくて…
くに　うちのクラス、図書委員だけじゃなく、全ての委員会が決まってないんだ。
悠里　さっさと決めなさいよ。
大輔　努力します。
悠里　剛史、やっぱりあんたやりなさいよ。
剛史　お前とは嫌。
悠里　何でよ。
剛史　嫌なもんは嫌。
悠里　あんたとあたしの仲じゃない。
剛史　どんな仲だよ。
悠里　胸に手を当てて、考えてごらんなさい。
全員　んー……（胸に手を当てて考える）
悠里　一生やってろ、バカ。

（悠里退場）

全員　…んー。ん？
大輔　図書委員、やりたい人。
洋輔　はい。

（剛史、大輔、くに、洋輔退場）
（翔子、賢治の後ろについて登場。千皓が登場すると、千皓の後について退場）

F．O．
暗転

四

佐橋先生　『智恵子は東京に空がないという。本当の空が見たいという』これは智恵子抄の中の一説だ。ここに描かれてるのは高村光太郎の妻、智恵子に対する献身的な愛だ。みんな、わかるか？

全員　うーんん。

たけ　先生、献身的って何ですか？

剛史　バカだなぁ、医者が患者を診ることだよ。

たけ　へえー、そうなんだ。

佐橋先生　そうじゃない。献身的とは身を捧げること。つまり、高村光太郎は病床の妻を自分の全てを尽くして看病したんだ。素晴らしいなぁ。美しいなぁ。実に感動的じゃないか。なぁみんな。

全員　はぁ。

佐橋先生　そうだよな。分かる訳ないよな。彼女すら作れないお前らに、この夫婦の愛の素晴らしさが。そもそも、お前たちは愛を知らない。

優治　そんなことありません。

たけ　僕は、愛のエキスパートです。

星矢　Love is 本能！

廉平　先生の百倍は恋愛経験がありますよ。

佐橋先生　よし、そこまで言うなら、愛についての課題を出すぞ。お前ら全員、原稿用紙百枚分、論文を書いて来い。

全員　えっ？

佐橋先生　題名は「フェルマーの最終定理による現代数学の相互性理論と恋愛哲学」できるな？

全員　できません。

くに　難しすぎます。

大輔　題名の意味すらわかりません。

たけ　そもそも、それのどこに愛があるんですか。

剛史　僕らは、全然、先生の愛を感じません。

佐橋先生　わかった。わかった。じゃあ、小論文にしよう。原稿用紙十枚で、題名は「二十一世紀の宗教と恋愛論」。これなら書けるか？

くに　先生、僕たちは特別選抜クラスですよ。

佐橋先生　仕方ないな…じゃあ、作文にしよう。原稿用紙一枚で題名は「僕と恋愛」。

剛史　それくらい、書けますよ。

佐橋先生　さすがにそうだな。

優治　僕たちは、特別選抜クラスですよ。

優治　先生、一つ質問があります。

佐橋先生　なんだ、優治。

優治　「れんあい」ってどういう漢字を書くんですか。

星矢　平仮名でもいいですか？

佐橋先生　（落ち込んで）わかった。わかった。俺が悪かった。辞典で調べて、原稿用紙一枚分、

廉平　「愛」という漢字でうめてこい。これが、俺の最大限、お前らへの愛情だ。
佐橋先生　そんな愛はいりません。
　愛は返却不可能だ。お前ら、しっかり書いてこいよ。では、授業を終わる。
　起立、礼。

（先生、退場。）

たけ　大体、愛って何だよ。
廉平　献身的な愛って言われても。
大輔　身を捧げる愛ってどんなだ？
純也　惚れた女がどんなになっても愛し、守り、支え続けることだ。
剛史　そんなことできるかよ。
くに　僕ならできると思う。
優治　本当だな？
くに　僕に任せて。

（劇中劇）

くに　今日も僕は妻たけ子の看病をしています。
たけ　おほっおほっ。
くに　たけ子大丈夫かい？
たけ　あなた、胸が苦しいわ。おほっおほっ。あ！
くに　また、胸が痛むのか。
たけ　ええ、あなた、いつもすまないわね。
くに　何を言うんだ。僕と君は夫婦だよ。
たけ　あなたのその優しい言葉が怖い。
くに　何を言ってるんだ、たけ子（背中をさする）
たけ　あ…とっても気持ちがいい。
くに　そう、よかった。
たけ　あなた、たまには髪をときたいわ。くしを取ってちょうだい。
くに　いいとも。
たけ　病気のときでも女は常に美しくなきゃいけないと思うの。
くに　お前はとっても綺麗だよ。
たけ　ありがとう。あっ！
くに　どうしたんだい？
たけ　あなた、こんなに髪が抜けてしまったわ。
くに　大丈夫かい？
たけ　大丈夫よ。あっ、こんなに抜けてしまって…。あなた、ここに髪がないわ。
くに　大丈夫、綺麗だよ。
たけ　あっ、あなた、目がはれてきたわ。
くに　大丈夫かい？

たけくに　あつい、あついわ！おほっおほっ。
たけくに　大丈夫、まだ、綺麗だよ。
たけくに　あっ、あなた、鼻がもげそうだわ。
たけくに　大丈夫、鼻がもげても綺麗だよ。
たけくに　あっ、あなた！
たけくに　どうしたんだい？
たけくに　死後硬直し始めたわ。
たけくに　助けて下さい！誰か助けて下さい！

（終）

全員　うっそくせー。
廉平　何で男が女に献身的になんなきゃいけないんだよ。
くに　だって今、はやりだから。
たけ　それは映画の世界でしょ！
剛史　そういう女はごめんだよ。やっぱり女は男につくさなきゃダメだよ。

（劇中劇）

剛史　ねぇ、どっか行こ。
廉平　どっか？そんな微妙なこと言わないでくれない？
あたしにも心の準備っていうか、そういうのが必要なの。わかる？
それにね、もう約束がいっぱい入ってて…
剛史　（足ドン）
廉平　御意。
剛史　ディズニーランド行かない？
廉平　ディズニーランド？あんたどういうとこか知ってんの？
あそこの料理くそマズいわよ。チョベリバー。ビッグサンダーマウンテン
あり得なくない？ビッグなサンダーとかまじで訳わかんない…
剛史　（足ドン）
廉平　御意。
剛史　日曜日にしよっか。
廉平　日曜日？あたし日曜日は遊びに行くの。月曜は美容院行って、火曜は
ネイルサロン行って、水曜は日焼けサロン行って、木曜はまた友達と遊び…
剛史　（足ドンするフリ）
廉平　御意。……だましたわね、もういい。
剛史　転べ。
廉平　（転ぶ）

（終）

たけ　いやー、素晴らしい。男はこうでなくちゃ。思わず心が動いちゃったよ。
裕也　剛史、お前の背中に男を感じる。
剛史　ありがとう。
くに　えっ、こんなのただの男のエゴでしょ。廉平。
廉平　何だよ。
くに　キショイ。すごくキショイ。
廉平　ごめんなさい。
星矢　キショイ女は嫌われ者だよ。
剛史　じゃあ、どんな女ならいいんだよ。
優治　女はやっぱり、かわいいのが一番だよ。
剛史　おっ、えらい自信たっぷりだな。
優治　女がそうさせるんだよ。
洋輔　優治君。
優治　何だよ。
洋輔　彼女できたの？
優治　できた。
裕也　よかったなぁ、優治。
廉平　そんなにかわいいのか？
優治　かわいい。
廉平　どのくらい？
優治　とっても。
裕也　おめでとう！お前にいつか幸せがくると、俺は信じてたよ。
優治　いつから？
裕也　ずっと前から。
優治　本当に？
裕也　多分。
優治　絶対？
裕也　そうじゃないかな。
優治　間違いないか？
裕也　自信ない。
大輔　優治、お前もう手つないだか？
優治　俺、まだ手つないでないんだよ。
大輔　そうか、僕といっしょだな。
廉平　おいおい、もしかして大輔もかよ。
剛史　何だよ、二人だけぬけがけかよ。
裕也　ごめん、俺も彼女できたんだ。
くに　うそ？
剛史　ほんと？
廉平　まさか～。
優治　おめでとう。今日のお前、輝いて見える。
裕也　そういうお前も今日はサンシャイン。

大輔　3人そろって幸せ三人組か
剛史　じゃあ、ちょっと聞いてもいいか？
裕也　いいよ。
剛史　身長は？
大輔　普通。
裕也　低い。
優治　とっても小さい。
剛史　胸は？
大輔　普通。
裕也　小ちゃい。
優治　とっても大きい。
　　笑顔は？
大輔　普通。
裕也　満点。
優治　少ない。
くに　どんな所にひかれたの？
大輔　ちょっとわがままなとこ。
裕也　主に骨。
優治　小さなおでこ。
剛史　匂いは？
大輔　ジャスミン。
裕也　蚊取り線香。
優治　バター。
廉平　お前らどんな女と付き合ってるんだよ！
3人　かわいい女。
剛史　廉平、よせよせ。恋は盲目。
たけ　好きになったら、あばたもえくぼか。
優治　何それ？
たけ　もういい。
剛史　俺は笑顔いっぱいの子がいいな。いつも笑っていてくれるコ。
洋輔　どんなコ？

（妄想開始）

剛史　ただいま。
たけ　おかえりなさい。
剛史　実は・・・話さなきゃいけないことがあるんだ。
たけ　何よ。
剛史　リストラされた

（たけ、笑い始める。）

剛史　今日会社に行ったら、机なかったんだよ

（たけ、笑い続ける。）

剛史　会社も経営難らしくてさ、俺必要ない人材なんだって

（たけ、大爆笑。）

剛史　俺いらないんだって！

（転げ落ちても大爆笑）

（妄想終了）

廉平　こんな奥さんいらないよ。

星矢　笑い過ぎだよ。

くに　実際に居たら怖いよね。

純也　リストラされても笑ってくれる女性なんて最高だよ！

剛史　でもこの笑いはちょっと違うと思うぞ。

純也　贅沢言うなよ。こんな女だったらどうすんだよ。

（妄想開始）

純也　今日はラーメンかぁ。また一人分？

たけ　えぇ、もちろん。弱肉強食ですからね。

純也　じゃぁ始めるか。

たけ　今日は勝ってくださいね。

純也　頑張る。

たけ　それじゃあ、レッツ、

純也　レッツ、

二人　ミュージック！

（二人で椅子とりゲームを始める。たけが歌を歌いだす）

（たけが歌い終わり座ると、純也が続きを歌い始める。純也が座る）

純也　三日ぶりの飯だー！いっただっきまー…

たけ　まだよ！あなたはまだ器の所有権を得ていないのよ。

純也　なくても食べれるよ。

たけ　言ったわね。じゃぁ食べてみなさい。

（たけ、ラーメンを床に流すフリ）

たけ　何、食べれないの？

（たけ、床に這いつくばってラーメンをするフリ）

たけ　あぁ、おいしい。リストラって嫌よね。

（妄想終了）

くに　そんな夢のないことやめようよ。

純也　じゃあ、くには何かいい夢持ってるのかよ。

くに　僕？僕は…言えないよ。

剛史　何だよ、言ってみろよ。

くに　僕は…自分の操縦する飛行機に彼女を乗せて、世界一周旅行をしてみたいんだ。

音響ＩＮ

（飛行機のシーン）

たけ　くに君、こっち来てー！。

くに　今、いくー！

（くに、たけの元へ）

くに　エンジン始動。

たけ　プロペラが回ってる！

くに　さぁ飛ぶよ。

たけ　うん。……飛んでるー！

くに　たけ子、怖くない？

たけ　ううん、ちっとも。くに君と一緒になら怖くないわ。

くに　右旋回！んーーー。左旋回！んーーー。

たけ　急旋回！んーーー。

くに　怖い、怖いわくに君。

たけ　水平飛行！んーーー。

くに　もう、くに君の意地悪―。たけ子とっても怖かった。

たけ　ごめんよ、君にこの大空を見せたくてさ。

くに　だと思ってた。

たけ　やっぱり。

くに　わぁ、街が小さく見えるわ。

たけ　ほら、あれが国会議事堂だよ。

くに　その隣にあるタワーは何？

たけ　あれは通天閣だよ。

たけ　すごーい！
くに　これくらい常識だよ。じゃあ、あれは何かわかるかい？
たけ　あれは…名古屋ハウジングセンター？
くに　開門トンネルさ。
たけ　じゃああれは何？
くに　青函トンネルだよ。ちょっとくぐってみようか。んーーー。
たけ　トンネルを抜けたわ。目の前に富士山がある！
くに　よけなきゃ！うわぁ、乱気流だ、危ない！
たけ　危ない危ない！(我に返り)危ないっつってんだろ！
くに　水平飛行―。
たけ　すごい、海が広がってる。くに君、あの赤い線は何？
くに　あれは赤道だよ。
たけ　赤道ってやっぱり赤かったのね。ずっとつながってるの？
くに　そう。最後は地球を一周するんだよ。
たけ　なんてロマンチック。じゃあ、あれは何？
くに　自由の女神だよ。
たけ　あの人はあそこで何やってるの？
くに　ピラミッドを守ってるんだよ。
たけ　ピラミッドって何？
くに　でっかいルービックキューブだよ。
たけ　ルービックキューブって何？
くに　全ての面を揃えたら、幸せになれるという噂の箱だよ。
たけ　やってみよう。
くに・たけ　カチャカチャカチャ…揃ったー！
くに　あ、箱が割れる！
たけ　ポン！何か出てくる。
くに　いっぱい出てくる。
たけ　何？
くに　何だ？
たけ　何よ？
くに　何だよ？
たけ　何だコレ？
くに　何だコレ？
たけ　あ！最後に何か残ってる。
くに　これが僕達の、幸せ…。
たけ　くに君。
くに　たけ子。
たけ　幸せにしてね。
くに　幸せになろうね。

（キスの寸前で悠里登場）

悠里　ちょっと、あんたたち。

音C.O照明

悠里　図書委員決まった？

くにたけ　墜落。

暗転

五

トイレシーン

（万美子登場。政希登場。万美子、政希の道を遮って）

万美子　ちょっと、あなた。今あたしを抱きしめようとしたでしょう。

政希　はい？

万美子　あたしはみんなのアイドルなのよ。あなたにあたしはもったいないわ。

政希　はい。

万美子　卵からやり直してらっしゃい。

政希　はい。

万美子　わかった？

政希　（遮って）はい。

（政希退場。賢治登場。万美子を見て眼を会わせないようにする）

万美子　ちょっと！

（そのまま賢治退場）

万美子　照れちゃって。

（廉平登場）

万美子　ちょっとあなた！
廉平　何？
万美子　あなたあたしのこと好きでしょ？
廉平　は？
万美子　だってあたしのこと見てたじゃない。
廉平　いや、見てないし。
万美子　そんなに恥ずかしがらなくてもいいわ。
廉平　私のことが気になって気にな…（頬をつねられ）イテテテ。
万美子　お前になんか興味ないんだよ。
廉平　私にこんなことした人はあなたが初めてよ。
万美子　これからは少しだけ気にかけてあげ…（でこピンされ）イテッ。
廉平　うるさい。

（廉平退場）

万美子　…照れちゃって。（照明の方を指差して）ちょっとあなた！今あたしのことを誘惑しようとしたでしょ！あたしと結婚を夢見るなんて十年早いわ！（退場しつつ）

（洋輔登場）

万美子　邪魔よ！

（洋輔、突き飛ばされる。万美子退場。星矢登場）

洋輔　絆創膏持ってる？
星矢　持ってない。

（剛史、星矢とすれ違うように登場）

洋輔　絆創膏持ってる？
剛史　ない。

（剛史退場。女子トイレから美香子、友里奈が登場）

洋輔　ねぇ、絆創膏…
美香子・友里奈　イヤーーー！

（美香子、友里奈退場。悠里登場）

悠里　どうしたの？

洋輔　(傷を隠して)何でもない。
悠里　ケガしたの？
洋輔　…うん。
悠里　(絆創膏取り出し)これ。
洋輔　何？
悠里　絆創膏。
洋輔　ありがとう。
悠里　(もう一枚取り出し)はい。
洋輔　何で？
悠里　替えがいるでしょ。
洋輔　ありがとう。

(悠里退場。洋輔、ゆっくり立ち上がり退場。史織登場。大輔男子トイレから登場)

大輔　あ、史織だ。
史織　やっほー。あーっ、てかこの前借りた数学のノート、間違いだらけだったんだけど。
大輔　え、嘘。

(裕也登場)

裕也　おっ、史織。大輔、紹介するよ。前言ってた俺の彼女の史織だよ。
大輔　おい、何言ってんだよ。史織、お前裕也なんかと付き合ってないだろ。
史織　うん、そうだよ、もちろん。
裕也　どういうことだよ。ラブレターくれたじゃん。
史織　ラブレター？そんなのあげてない。
裕也　何言ってんだよ、ほら(年賀状を見せて)
大輔　これ年賀状じゃねぇかよ。お前はどこまでバカなんだ。とにかく、史織は俺の彼女なんだよ。
史織　ちょっとどういうこと？あたし大輔と付き合ってないよ。
大輔　何を恥ずかしがっているんだ。俺と史織は一つ屋根の下で暮らしているじゃないか。
史織　同じマンションってだけじゃない。
裕也　おいおい、俺と史織には「愛の証」まであるんだぞ。見ろ、お揃いのハートのストラップ。史織、お前も出せ。
史織　え？
裕也　ストラップだよ。
史織　うん(携帯を取り出して)
裕也　見ろ、俺たちの愛のモニュメントを。これが俺たちの愛を永遠にしていく…って、あれ？(ストラップを合わせようとするが、合わない)
大輔　(携帯を取り出して、裕也と合わせてみて)
裕也・大輔　合ってるー。
史織　ごめん、大輔が欲しいって言ったからあげちゃったの。

大輔　だ、だったら史織が俺のために毎週水曜日の午後一時から花嫁修行してるって知ってるか？　料理、裁縫、洗濯。
史織　待って待って、それって家庭科の授業でしょ。
大輔　あれは俺のためじゃないのか？
史織　当たり前でしょ。
裕也　分かった、こうなったらどっちが史織の彼氏にふさわしいか決めようじゃないか。
大輔　望むところだ。まずは鬼ごっこ。
裕也　じゃ、鬼は史織ね。
史織　え？
大輔　捕まえられるものなら捕まえてごらん。
裕也　俺たちなかなか捕まらないぞ。
裕也・大輔　鬼さんこちら、手のなる方へ。鬼さんこちら、手のなる方へ。

（裕也、大輔退場）

史織　もー…何勘違いしてんのよ。

（優治登場）

優治　史織―！｝聞いてくれよ、俺さっきの体育で初めて跳び箱五段飛べたんだ。これで
オリンピックの道にまた一歩、近づいたんだよ。三年後には北京、七年後にはロンドンだよ。その時には必ず君をロンドンに連れていくから、予定空けておいてね。
史織　うん、楽しみにしてる。
優治　ところで、今度の日曜日空いてる？
史織　ごめんなさい、その日はお母さんの三十三回忌なの。
優治　それじゃあ仕方ないね…じゃあ次の日曜日は？
史織　ごめんなさい、その日はペットの亀がロードレースにでるの。
優治　ロードレース？
史織　４２，１９５
優治　そりゃまた長い。
史織　一日中ついてなきゃいけないの。
優治　なんと過酷な…だったら、
史織　（遮って）待って！私の都合であなたを振り回すことはできないわ。
優治　史織…
史織　私から連絡する。いつになるか分からないけど待ってて。
優治　待つよ、一ヶ月でも二ヶ月でも。
史織　二年でも三年でも、ずっと待っててね。
優治　俺、待つ。
史織　ずっと待っててね。

優治　ずっと待ってるよ。
史織　ずっとずっと待っててね。
優治　ずっとずっと待ってるよ。

（史織退場）

優治　ずっと、ずっと、待ってるよ。マイハニー。

（優治退場。翔子、雄貴を追いかけていく）

六

剛史　やだ！やだやだやだー！
たけ　そんなこと言ったってお前しかいないだろ。
廉平　ご指名はお前なんだから。
星矢　そう、悠里のハートはお前でいっぱい。
裕也　乙女心を悩ますなよ。
剛史　図書委員を出せっていうことだけだろ。
大輔　バカだな、お前は。
裕也　図書委員にかこつけて、真の狙いはお前なんだぞ。
剛史　あれが乙女か？
純也　乙女だよ。恋する女はみんな乙女だ。
剛史　だったらお前にやるよ。
純也　俺はいらない。
剛史　俺だっていらないよ。
くに　冷静に考えよう。このクラスでは図書委員が決まってない。もちろん他の委員もどれ一つ決まってない。しかし、図書委員の攻勢は日ごと夜ごと増すばかり。あの悠里さんがこの教室にくるたびに、みんなの心はまじビビってる。これに僕らは一致団結になって、戦わなければいけないんだ。
大輔　誰かが図書委員をやらなきゃいけないってことはわかってるよな？
剛史　それはわかってるよ。
裕也　毎日うら若き乙女が、このむさ苦しい二年さくら組に、か弱い心にムチ打って、くじけそうになりながらも、つぶらな瞳に願かけて、足を棒にしながら来てるんじゃないか。増してや剛史、お前に来てほしいとお百度参りまでしているんだぞ。
たけ　なんとけなげな子じゃないか。

星矢　剛史、お前それでも男か。
優治　要するに、お前が好きだから来てるんだぞ。
廉平　それがわからないお前じゃないだろ。
剛史　わからないよ。
純也　お前は悠里から逃げてるだけだ。
剛史　だって俺は…
裕也　皆まで言うな。お前は心のどこかで悠里の愛情を感じてると思う。
剛史　でも…
たけ　黙れ剛史！ここまで女に惚れられるお前が憎い。
剛史　わかった、百歩譲って図書委員をやったとしても悠里の気持ちには応えられない。
星矢　絶対無理か？
剛史　無理。
大輔　図書委員は？
剛史　こらえる。
廉平　悠里もこらえろ。
剛史　あれは無理。
純也　わかった。ここまで言ったらもうこれ以上剛史に無理を言うのはやめよう。
くに　剛史、申し訳ないけど図書委員は引き受けてくれ。
剛史　図書委員だけだぞ。
裕也　悪いな。みんなそれでいいな。悠里の愛には応えられないけど、図書委員は引き受けてくれるって。
くに　これ以上僕たちは無理を言っちゃいけない。これで十分。ごめんな、剛史。
剛史　しょうがない。惚れられた男の宿命だ。
たけ　剛史、君なら図書委員立派にやってくれると思う。洋輔、これでお前も図書委員諦められるな？
洋輔　うん。（拍手をする）
大輔　よし、決まった。
優治　でも悠里の愛はどうするの？
純也　諦めさせるさ。
剛史　どうやって？
裕也　遠回しな言葉はああいう女には合わない。はっきり言った方がいいと思う。
剛史　じゃあ、嫌いだって言えばいいのか？
純也　それじゃあ傷つく。
廉平　いや、傷つけられるのは俺たちの方だ。
たけ　誰も生きてることは出来ないだろう。
星矢　相手を傷つけないように断るしかない。
剛史　どうやって？
裕也　君には俺よりふさわしい人がいる。
純也　こんなかわいい君だから、俺よりもっと素敵な人が君を待っている。
たけ　悔しいけれど、君の幸せのために、俺は笑いながら、スキップして身をひくよ。
全員　かっこいー！

廉平　剛史、男の生き様見せてもらうよ。
くに　剛史すごーい！僕だったら絶対出来ない。
大輔　要するに、悠里に目をつけられたのがお前の運の尽きだったな。
優治　悪いな、剛史。お前に全部押し付けて。
裕也　しょうがないよ、これが色男の宿命なんだ。
たけ　よっ、悠里殺し！
純也　鬼殺し！
くに　正義の味方！
剛史　やめてよー。

（悠里登場）

悠里　図書委員決まった？
くに　悠里さん、長い間迷惑かけてごめんね。
大輔　やっと図書委員が決まったんだ。
悠里　ああそう。良かった、ほんと迷惑してたんだから。
たけ　ごめんね、いつまでも君の心を惑わせてしまって。
悠里　別に惑わされてなんかないわよ。
裕也　君の心を傷つけてしまった。
悠里　何が？で、誰に決まったの？
廉平　君の見初めた彼だよ。
悠里　見初めた？誰？
洋輔　剛史。山田剛史君。
悠里　剛史？やってくれるの？どうもありがとう。さっそくだけど、今日の放課後…
剛史　ごめん、一つだけ言いたいことがある。図書委員は引き受けたが、君の心まで引き受けることはできない。
悠里　何のこと？
剛史　君の心をかき乱してしまったね。俺って罪な男だね。時々自分が憎たらしくなる。
悠里　何言ってるの？
剛史　君には俺よりふさわしい人がいる。こんなかわいい君だから、俺よりももっと素敵な人が君を待っている。悔しいけど、君の幸せのために、俺は笑いながら、スキップして身をひくよ。
悠里　どういうこと？
優治　悠里、剛史のこと好きだったんだろ？
悠里　え？
純也　隠すなよ。
くに　君も辛かったよね。
悠里　え？
裕也　図書委員にかこつけて、剛史と一緒にいたかったんだろ？
たけ　俺たちみんなわかってるよ。
剛史　悠里、ごめんな。

悠里　ちょっと待って。何？あたしが剛史に惚れていて、だから図書委員のことでしょっちゅうここに来てると思ってたわけ？
全員　はぁ。
悠里　バカ言わないで。あたしはこの二年さくら組に図書委員がいないから、みんながちゃんとやっているんだから。あんたたちのクラスだけよ、何もしてないのは。
くに　それはわかってる。
悠里　剛史が目当てで来てると思ったの？
星矢　違うの？
悠里　違うに決まってるじゃない。
廉平　でもお前の剛史に対する態度…
悠里　どんな態度よ。
裕也　これだけ男が居る中で、最初から剛史を指名していたじゃないか。
優治　なんか、好きというか…
悠里　そんなのない。
くに　でも剛史、剛史って…
悠里　たまたま去年同じクラスだった剛史を知っていたから、彼なら引き受けてくれると思ったの。
大輔　でも洋輔は手を挙げたぞ。
悠里　洋輔って誰よ？
大輔　あいつだよ。
悠里　だって彼のことはあたし何も知らない。
廉平　だったら今の図書委員はお前の知ってる奴だけか？都合のいい女だな。
悠里　委員会は知ってる者の集まりじゃないだろ。
ごめんね。早く決めようと思ってただけ。剛史に甘えたあたしが悪かったわ。図書委員なんか、誰もやりたくないよね。剛史なら引き受けてくれるような気がしたの。剛史、ほんとにごめんね。ちょっと調子にのっていたみたい。それに洋輔君、あなたにも嫌な思いをさせてしまったわね。ごめんなさい。
裕也　そうだったのか。俺てっきりお前が剛史のこと好きだから、図書委員に引っ張り込もうとしていたと思ってたよ。大きな勘違いだったな。
悠里　バカねぇ、あたしが剛史を好きになるわけないじゃない。
くに　そうだよねぇ、僕たちみんな早とちり。
悠里　ただの昔のクラスメイト。剛史はモテるタイプだから、私まで勘違いされちゃった。
たけ　剛史、よかったな。俺たちの勘違いで。
剛史　ほんとだよ、俺安心した。俺と悠里はただの知り合いってだけだもんな。
悠里　惚れられてどうしようかと思っちゃったよ。
剛史　剛史、相変わらず自身満々ね。
悠里　まぁね。
あたしがあんたに惚れるわけないでしょ。そんなことになったら他の女の子に逆恨みされちゃうよ。あたしみたいなブスが剛史とつり合うわけないじゃない。

裕也　剛史面食いだしな。
悠里　そうよ、女は顔が一番よ。
たけ　わかってるじゃん。
廉平　第一、下手すると剛史より男らしいよな。
星矢　肩幅広いし。
優治　ガタイいいし。
廉平　まさに男の中の男って感じ。
くに　腕相撲したら僕骨折れちゃう。
純也　女にしとくのがもったいないよ。
悠里　ほんとね、あたし男に生まれればよかった。
星矢　性格も男らしいよな。
たけ　お前性格変えた方がいいよ。
悠里　でも顔がこれじゃあね。顔もブス、性格もブス。ほんと、あたしっていいとこ何にもないわよね。
剛史　何を今更。
大輔　お前みたいな女に恋なんて似合わないよ。
剛史　お前恋したことなんてないだろ。
悠里　ないよ、恋なんて。あたしが恋するわけないじゃない。…でも、人を好きになったことはある。どうしようもなく、好きになったこともあるわよ。ひょっとしたら、いつかその人があたしのことを好きになってくれるかもしれない、って夢みたことも、あるよ。…おかしいわよね。こんなあたしが人に好きになってもらおうなんてさ。あたしってほんとバカ。バカバカバカバカ(頬を叩きながら)…あたしって、思い上がった最低な女よね。いつもみんなに迷惑かけて…。ごめん……ごめんなさい……

(悠里、泣き笑いのまま走っていく)

廉平　…変な奴。
裕也　剛史、やっぱり良かったな。
剛史　そうだよ。あんな奴に惚れられなくてほんと良かった。
たけ　変だ変だと思ってたけど、あそこまで変な奴とは。
剛史　だから俺たち振り回されてたんだよ。
優治　まぁ、これで一安心。今夜からはぐっすり眠れるぞ。
大輔　純也、これからは一人言言えないな。
純也　わかってるよ。
廉平　剛史、真剣に悩みすぎたな。
剛史　私って、ほんとにバカ。

(みんな口々に悠里の真似をし始める。それまで黙っていた洋輔が箒を持ち、いきなり剛史を殴る。そのまま次々とみんなを殴り始める。優治と廉平が洋輔の体を抑え、くにが洋輔を止める)

くに　洋輔、暴力は良くないよ。とにかく落ち着け。君の気持ちは良くわかるから。
洋輔　ひょっとして洋輔、悠里さんのこと好きだったんじゃない？
くに　（何か言おうとする）
（それを制止して）ごめん。ごめん。それは僕の勘違いだと思う。僕たちは
いつの間にか悠里さんを傷つけてしまったのかもしれない。いや、傷つけていた
んだと思う。本当にバカなのは、きっと僕たちだ。男の勝手ないい分と思い込み
で彼女を泣かせてしまった。僕たちの話に合わせてくれた彼女に気づいていな
かったんだ。洋輔君が怒るのは、無理もない。彼女が笑っているように見えた
から、つい調子に乗ってしまったんだ。そんな僕たちを、洋輔君は許せなかった
んだよ。

（洋輔がいきなり後ろからくにを箒で殴り、けり倒す。箒をとられ、椅子で
殴り掛かろうとすると、たけに止められる）

たけ　やめよう。（それでも暴れる洋輔に）洋輔、やめよう。

（洋輔が椅子から手を離す）

たけ　落ち着け、洋輔。くに、やめよう。
くに　でも僕は…
たけ　やめよう。俺たちみんな、バカばっかりなんだぞ。洋輔の気持ちなんか、わかる
わけないじゃないか。だから俺たち勘違いばっかりしてるんだよ。
剛史　バカは調子にのりやすいからな。
裕也　相手が笑ってたら、ほんとに笑ってると思ってる。
廉平　人のことなんか、上辺しかみてない。
優治　女、女、女って…女の何をわかってたんだろう。
剛史　俺たちの男って、何だ？
星矢　本能だけだよ。
くに　バカは自分のバカにも気づいていない。
たけ　みんな、いつまでもバカでいるの、もうやめよう。

間

廉平　…片付けよう。

間

剛史　もう一回、図書委員決めよう。
全員　うん。

剛史　（洋輔の方を見ずに）図書委員、やりたい人！

（洋輔、一人手を挙げる。）
（全員、洋輔を見ずに、段々と拍手する。）
（洋輔、笑顔でうなずく。）

暗転

七

たけ　うっそー、ありえねぇ！
じゅん　だまれ！集中が乱れる。
大輔　廉平、腹痛の具合、どうだ？
廉平　ビミョー。
大輔　ビミョーってどういうこと。
廉平　腹痛がな、だんだん胸焼けに変わってきた。
純也　よしよし。それでいいんだ。
たけ　痛みが上に移動しただけだろ。
純也　ねらい通り。
剛史　どんなねらいだよ。
純也　痛みがだんだん上に行って口からポンと出る。
星矢　ポンと出るのか。
純也　そう。
裕也　それで治るってか？
純也　よくわかったな。
たけ　うさんくせー。

（くに・康輔を抱きかかえて登場）

くに　間に合った。
剛史　どうした？　くに。
くに　だって僕保健委員だろ。
剛史　うん。
くに　この子が廊下でうなっていたんだよ。
裕也　なんで連れてきたんだよ。
くに　この前下痢気味でお腹が痛いとき、純也にダウジングやってもらったらさ、痛みが口からポンと出たんだ。
剛史　ちょっと待て。下痢気味だったんだろ？
くに　うん。

たけ　うんちが出たってこと？
くに　違うよ、痛みが出たんだｙ６お。
大輔　そうか、やっぱりきくんだ。
星矢　俺の本能もきくと言っている。
剛史　嘘くせー。
たけ　うんこくせー。
くに　頼めるかな。
純也　ちょっと待って。

（くに、康輔と椅子に座る。洋輔登場）

洋輔　失礼します！
たけ　今度はどこが痛い。
洋輔　図書館です。
くに　本が傷んでるのかな。
剛史　どうした、洋輔。そんなかしこまって。
洋輔　今日は、図書委員会からのお知らせで参りました。
廉平　それがどうした？
洋輔　梅雨も明けて夏の暑い日が続く中、皆様はいかがお過ごしでしょうか。
裕也・剛史　暑中見舞いかよ！
洋輔　このたび図書委員会では、皆様にたくさん本を読んで、えーと…
康輔　どうした？
洋輔　ちょっと待ってね。皆様にたくさん本を読んで…

（図書委員（悠里、彰宏）登場）

悠里　洋輔、ちゃんと読まなきゃダメでしょ。
洋輔　委員長。
悠里　廉平、どうしたの？
大輔　ちょっと調子悪くてね。
悠里　あ、そう。お大事にね。
剛史　悠里、今日は何だよ。
悠里　図書委員会から、夏休み長いからもっとみんなに本を読んでもらおうと思って。
　　そのキャンペーン。
たけ　ってことは、洋輔はキャンペーンガールなの？
洋輔　ううん、キャンペーンボーイ。
悠里　これがマスコットキャラクターなの。
彰宏　もっと本を読め。
剛史　モリゾーか。
彰宏　地球も大切に。
悠里　じゃああたし、他のクラスに言ってる連中を見てくるから。キャンペーンに

ついて、もう少し説明しとくようにね。
洋輔・彰宏　はい。
悠里　お邪魔さーん。
たけ　悠里。
悠里　何？
たけ　こないだのカラオケ、割り勘な。
悠里　え？奢りじゃなかったの？
くに　あれだけ飲んで食って歌って奢りっはないでしょ。
悠里　何言ってるの。レディーに払わせる気？
剛史　誰がレディーだって？
悠里　あたしがレディーよ。何か文句ある？
全員　よし。では。

（悠里退場）

洋輔　それでは改めて。梅雨も明けて夏の暑い日が…
廉平　そこから始まるのかよ。

（生徒会(正侑記、友祐)登場）

正侑記　失礼します。
廉平　あんた誰？
正侑記　生徒会の綱島正侑記です。
たけ　生徒会が何の用？
正侑記　実は、諸君にお願いがあってやってきた。
剛史　俺たち何の役にも立たないよ。
正侑記　大丈夫、ただの人数合わせだから。
くに　それなら出来そうだ。
正侑記　今、我が校には応援団がない。今度、野球部の夏の地区予選に向けて、応援団を結成したい。
全員　え！
正侑記　各クラスには三名ずつ応援団員として出席してもらいたい。共はここに、野球部のキャプテン、西村祐貴も連れてきている。西村、入れ！

（野球部(祐貴、賢治、千皓)登場）

祐貴　ウス！入ります！今度の夏の地区予選では、念願の一回戦突破を果たしたい！
千皓・賢治　ウス！
祐貴　是非ともみんなの力で俺たちを甲子園に連れて行ってもらいたい！
千皓・賢治　ウス！
たけ　その太いのはキャッチャーか、たくましいな。

賢治　自分はピッチャーです。
千皓　キャッチャーは自分です。
くに　すごいバッテリーだね。
康輔　うん。

（大志登場）

大志　うわぁー！助けてくれ！

（万美子登場）

万美子　ちょっと、どこいったのよ！

（全員目をつむる）

万美子　逃げてきた男の子見なかった？
全員　見てません。
万美子　声が聞こえたんだけどな。
全員　（耳を押さえて）聞こえません。
万美子　ほんとに見てないのよね。
全員　（全員目をおさえ）見たくありません。
万美子　見たら教えてね。
全員　（口をおさえ）言いたくありません。

（万美子退場）

大志　ありがとう、助けてくれて。
正侑記　心配するな、お互い様だ。
廉平　お、お、おおお……ポン！
大輔　ほんとに出たの？
剛史　廉平、大丈夫か？
廉平　治った！
くに　良かったね、次は君の番だよ。
康輔　うん、でももう少しこのままでいたい。
くに　わがまま言っちゃダメだよ。
康輔　うん。
剛史　くに、もしかして運命の人か？
くに　そうかもしれない。
たけ　席外そうか？
くに　そこまで気をつかわなくてもいいよ。
正侑記　モリゾーとキッコロ、いつまで寝てるんだ。

彰宏・友祐　はい。

（演劇部（雄貴、政希）登場）

雄貴　こんにちは、演劇部の部長ですけど。
裕也　演劇部が何の用だよ。
雄貴　今度大会で白雪姫をやることになりまして、その王子役を探しているんです。
剛史　演劇なんかかったるくて嫌だよ。
廉平　あんたやればいーじゃん。
雄貴　いえ、僕は演出をやるんです。彼は小人その三の役をやらなければならないので、ムリなんです。
大輔　やりたいヤツいるか？
全員　んーん（手を振って）
雄貴　演劇部の男はモテますよ。
全員　えっ？
たけ　何で？
雄貴　各学校の演劇部は男子よりも女子の方が多いんです。
くに　男が少ないからモテるってこと？
雄貴　その通りです。
剛史　誰でも？
雄貴　多分。
賢治　俺でも？
雄貴　希望は持ちましょう。
賢治　キャプテン。
祐貴　何だ？
賢治　演劇部行ってもいいですか。
祐貴　馬鹿者！
雄貴　キスシーンもありますよ。
祐貴　よろしくお願いします。

（全員一斉に騒ぎ始める。水着姿の優治、隆志が登場）

優治　おい、プール行くぞ！
廉平　優治どうした？その格好。
優治　隣のクラスが、今から体育でプールなんだってさ。
大輔　でも俺たち次の五時間目担任の国語だぜ。
くに　サボるの？
優治　お前ら、女と国語、どっちが大事なんだ。
全員　んー…女！
隆志　うちのクラス、美人揃い。
たけ　決まりだな。

（皆脱ぎ始める。しおり登場）

史織　くに君居るー？

（全員慌てて制服を正す）

くに　何、何？

史織　ごめん。これ、この間貸してくれたＣＤ、ありがとう。

くに　え？あ、どうもありがとう。

廉平　史織、それ俺の。

史織　え？

廉平　俺が貸したの。

くに　僕貸してない。

廉平　え、ごめん！ごめんね、とっても楽しかったわ。今度何かお礼するね。

史織　よせよ、自分の彼氏にいちいちお礼なんかすうるやつあるか。

たけ　史織、廉平彼氏なのか？

廉平　ううん。

史織　えっ。

雄貴　廉平君、史織の彼氏は僕だよ。

政希　部長！

雄貴　今まで隠しててごめん。

正侑記　史織、今日は俺とデートするんだろ？

史織　するよ。

隆志　え、史織は今日俺の家で勉強するんだろ？

史織　うん、そっちも行くよ。

正侑記　そんな事は俺が許さん！

賢治　あのー、ハンバーガーを一緒に食べに…

祐貴　却下。

賢治　ウス！

剛史　ちょっと待てよ、史織は俺の彼女だぞ！

（全員一斉に騒ぎだす）

くに　待って待って待って！史織ちゃんの彼氏だと思ってる人、手をあげて！

全員　はい！

洋介　はい！

くに　降ろして！しおりちゃん、君の彼氏って誰？

史織　あたしの彼氏？あたしがあげたお守りを持ってる人。

（全員お守りを出す）

史織　あたしと同じ色のお守りを持っている人。

（史織退場。佐橋先生、翔子に追いかけられて登場。一度退場してから再び登場）

佐橋先生　おい！何をもめているんだ。
剛史　愛が絡まっているんです。
佐橋先生　授業始めるぞ。
雄貴　白いお守り袋が見つかるまで、僕らはもう止まれない。
くに　今すぐ決着をつけます。みんな、いいね！
全員　ウス！
くに　史織ちゃんから貰った、白いお守り袋、持っている人手を挙げて！
佐橋先生　はい。
全員　先生！

喧噪の中、ＢＧＭが入り、幕。

完